TAMA UNIVERSITY 多摩大学

多摩大ジャーナル

2023 No.38

2023年9月30日発行　編集・発行：多摩大学　〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1　TEL：042-337-1111　FAX：042-337-7103　https://www.tama.ac.jp/　通巻40号

目標がない自分

経営情報学部４年　羽田 キッティパッド

６月末日、大学から多摩大ジャーナルの執筆依頼があった。執筆依頼をいただいて、今までの多摩大ジャーナルを読み返した。先輩方がおくった大学４年間の出来事は、華があり、後輩たちに目指して欲しい姿の一つと感じたのが素直な感想である。一方で、華のない大学生活もまた存在する。私は、目標のない自分をテーマに、「変われない」人たちに伝えたいと思い執筆に至った。

題名にもあるように、大学生活に目標なんてものは定めていなかった。バイトは月８万円、仲のいい友達も数名、やりたいこともなく、漠然と４年間を過ごし、社会人として働くことになると考えていた。そんな中、大事にしていたことが一つある。課題に対して真面目に取り組むことである。誰かの評価が欲しいというわけではなく、自分が満足していない状態で終わらせることに納得がいかなかったからである。そのために行ったことは、本や論文を読むことであった。少しの隙間時間や通学時間に読み進める。新たな疑問が見つかったら、それに関する資料を探す、これを何度も繰り返した。そして、課題という形でアウトプットする。私の大学生活の大半は、課題と向き合うことであった。慣れてくると時間に余裕ができ、大学２年の時には、自分の所属するゼミ以外に寺島実郎学長主宰のインターゼミ、国際関係に関する二つのゼミに参加し、さらに課題が増える環境に身を投じた。

目標があるわけでもなく、ただ目の前の課題をクリアする大学生活を過ごした。新しいことを学んだかと振り返ってみても、得られた学びは少ないように思える。しかし、「目の前の課題を解決する」という当たり前のことは、就職活動において大きな力となった。例えば、グループディスカッションにおける課題を発見する力、面接におけるコミュニケーション力は、インプットとアウトプットによって養われたものだと考えている。そして、これがうまくできている就活生もまた少ない。自分が積み重ねたものは、全く別のところで力になってくれるものである。

最後に、課題というものは、目標が定まっていなくとも課されるものである。勿論、そのような課題は、自分にとって無意味の場合もある。しかし、目標がないからこそ、無意味にも思えるような課題にも取り組むべきだと考えている。目標がある人たちは、目標を目指して課題を解決する。目標のない自分は、いつか目標が定まった時に時間的ディスアドバンテージを埋められるか、基礎固めをしたことによって自分の進みたい方向に動く瞬発力を高めておくことが重要だと考えている。たとえ、目標が定まらなかったとしても、積み上げた過程に大事なことが潜んでいたりする。

インターゼミ合宿での発表

シベリア抑留追悼式のボランティア

帝塚山大学での研究発表後の京都旅行

学生時代に力を入れて取り組んだこと

グローバルスタディーズ学部４年　澤田 昇太

私が学生生活を通して力を入れて取り組んだことや頑張ったことは、趣味であるサーフィンを通して自分自身のサーフィンのスキルを上げるほかに、海外へ行った際に必要不可欠となる英語のスキルを多摩大学で向上させるため日々の授業を真剣に取り組み、英語力を向上させたことです。

小さいころから両親の影響で始めたサーフィンは、気が付いたころには自分の人生の一部となっていました。サーフィンを通して家族と海外に行くことや、一人で行く機会が増えて外国人と触れ合うことが多くなりました。そんな中、中学生の時に一人で行ったアメリカのカリフォルニア州でホームステイをさせてもらったとき、“もう少し違う表現ができたら…”や“本当はこうやって説明したいのに…”などといった悔しい思いを重ね、高校や大学で英語力を向上させたいと思い、高校卒業後に英語はもちろんグローバルな勉強ができる多摩大学に進学することを決意しました。

入学してからはコロナウィルスの関係でオンライン授業が続き、対面で友達に会うことができない日々でしたが、その環境が自分の勉強に集中できる環境となり、英語力向上につながりました。また、対面で授業が始まるようになってからは外国人の先生が教えてくださる授業を積極的に履修し、“日本でも英語のみを使った授業”を多摩大学で経験し、外国人の先生とコミュニケーションをとることで自分自身の英語を使った表現力の向上や英語を聞く耳の慣れを体験することができ、海外に行った際利用できる英語力を培うことができました。また、TOEIC の点数を向上させるための講義では一般単語から上級英語まで様々な単語を学び、英語力としての引き出しを増やすことができました。

インドネシアで知り合ったオーストラリア人

これらの大学での学習や経験を活かし、サーフィンを通して大学３年次の２月と３月に行った旅先でも、実際に多摩大学で学んだ英語力を生かして海外の方とコミュニケーションをとり自分の思いを相手に伝えることや相手の意見を取り入れることで、海外の方と意見を交換することができました。

その他、大学４年次にゼミナールで行った活動として、訪日外国人に“飲食店利用動向調査”を行いました。その活動は実際に自分たち学生が訪日外国人に英語でインタビューをするというものでした。

多摩大学で学んだ英語を自分の私生活や旅行先、授業などで生かすことができたことから、この大学に進学してよかったと思っております。

旅先でのサーフィンの写真